

九州アジア観光アイランド総合特区 [指定：平成25年2月、認定：平成25年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(4.7 + 4.3) / 2 = 4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	アジアを中心とした九州への入国外国人数	175%	5
2	九州における訪日外国人の年間観光消費額	124%	5
3	特区ガイドの稼働者数	85%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 2 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4.7$

4.7

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(3.5 + 4.0) / 2 = 3.8$

3.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.5

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

-

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.0

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

- ・全体的に分析が明確で、今後の対応策が具体的に掲げられておりその取組姿勢を高く評価する。
- ・オール九州での特区ガイドの養成は評価に値する。しかし、稼働者数が少なく、連絡がつかないガイドが52%という状況はガイドの管理に問題があり、根本的な見直しが必要。案内した外国人の人数や一人あたりの平均稼働日数も把握してほしい。
- ・特区ガイドと旅行会社とのマッチング事業は参加旅行会社が10社に留まるのは寂しい。ガイドのニーズ調査は、LCC利用、ファミリー・個人、クルーズ利用のグループ等、地域・国・年代別に市場(客層)を細分化して行う必要がある。ガイドを必要とする顧客を抱える旅行会社に照準を合わせて働きかけることも必要である。
- ・次のステップとして、近隣アジア諸国頼みから脱却し、消費単価が相対的に高い欧米にも目を向けるべきである。九州地域への入国外国人数の取組は、目標の上方修正の検討や発地エリアの拡大など今後も期待する。
- ・特区の目標を特区ガイドなど特区事業だけで達成することは困難であり、因果関係の説明が必要である。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.5 + 3.8 + 4.0 \times 2) / 4 = 4.1$

4.1

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。